

1. 評価結果概要表

作成日

平成19年 5月25日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|---|-------|--|
| 事業所番号 | 4071501664 | | |
| 法人名 | 財団法人 大牟田医療協会 | | |
| 事業所名 | グループホーム ファミージュ | | |
| 所在地 | 福岡県大牟田市野添町 2 0 - 1 9 〒836-0095 (電話) 0944-41-1171 | | |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 福岡市中央区荒戸3-3-39 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年5月14日 | 評価確定日 | |

【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | | |
|-------|-----------------|---------|-----|----------|
| 開設年月日 | 昭和・平成 16年 9月 1日 | | | |
| ユニット数 | 2ユニット | 利用定員数計 | 18人 | |
| 職員数 | 16人 常勤 | 14人 非常勤 | 2人 | 常勤換算 14人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|------|--|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 1階建ての～ | 1階部分 | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|----------------|----------|------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 60,000円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷金 | 有(円) | 無 | | |
| 保証金の有無(一時金を含む) | 有(円) | 有の場合 償還の有無 | 有 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日あたり | | 1,200円程度 | |

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

| | | | | | |
|------|----------|------|-----|----|-----|
| 登録人数 | 18名 | 男性 | 5名 | 女性 | 13名 |
| 要介護1 | 4名 | 要介護2 | 5名 | | |
| 要介護3 | 7名 | 要介護4 | 名 | | |
| 要介護5 | 2名 | | | | |
| 要支援1 | 名 | 要支援2 | 名 | | |
| 年齢 | 平均 86.3歳 | 最低 | 78歳 | 最高 | 96歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 南大牟田病院・大牟田共立病院・かばしま歯科 |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体病院は地域医療を担っており、地域医療と在宅介護を手がけていく中でこの地域の高齢者率が高く、認知症高齢者が多いことからグループホームの必要性を感じ、開設したホームである。住宅地の中にもかかわらずホームは、自然豊かな環境の中にあり、ホーム周辺は格好の散歩コースである。職員は入居者一人ひとりの生活のペースを大切に、尊敬とプライバシーに配慮しながら「ゆったり」と寄添うケアを実施している。また、ホームへの入居前に利用していた喫茶店の利用や十日市への外出など、入居者個々の希望に応じた支援がなされており、ホーム入居前の生活の継続性に取組まれている。絶えずリビングに入居者が集り、自分の家と同じように思い思いに自由に過ごしている姿が見受けられた。

【重点項目への取組状況】

| | |
|------|--|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果を運営推進会議に提示して説明を行い、またミーティングの際にスタッフへ提示し、話し合いを行うなどの取組みがある。その結果から、運営推進会議を活用して地域交流への足がかりとしていくなどの改善への取組みが見られる。 |
| | 今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 外部評価内容を職員と協議するなどの取組みがある。今後についても、さまざまな内容についてユニット間の職員同士で話し合うなど、質の向上に向けた継続的な取組みの姿勢がうかがえた。 |
| 重点項目 | 運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 民生委員、公民館長、校区社協、地域包括支援センター等を交えての2か月毎の運営推進会議の開催がある。運営推進会議で地域交流を提案し、ホーム広報紙や行事案内を校区に配布したり、運営推進会議のメンバーのホーム見学が行われるなどの成果が見られる。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族の訪問時の声かけや家族会を利用した働きかけなど、家族等の意見や希望などの表出に努めている。不定期ではあるものの「ファミージュ通信」の発行を通じて意見や要望を言いやすい雰囲気作りへの取組みがある。 |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホーム広報紙や年間行事のお知らせなどを町内会で回覧版として回してもらい、地域住民のホーム行事への参加を呼びかけたり、地域の子供たちとの交流や野菜等のおすそわけをいただくなど、徐々にではあるが地域交流が進められている。 |

2. 調査報告(詳細)

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------|----------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 理念の共有 | | | | | |
| 1 | 1 | 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている | 地域との交流と入居者らしくを意識し、独自 の理念が作られている。 | | |
| 2 | 2 | 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる | 日常のケアの場面を通じての指導や話しが ある。また、職員同士で理念を基にした実践へ の取組みについて協議している。 | | |
| 2 地域との支え合い | | | | | |
| 3 | 5 | 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている | ホーム広報紙や年間行事のお知らせなどを 町内会に回覧版として回してもらい、地域住民 のホーム行事への参加を呼びかけたり、日々の 声かけや挨拶、野菜等のおすそわけをいただ いたり、地域の子供たちとの交流等を通じて、 徐々にであるが地域交流が図られている。 | | |
| 3 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる | 外部評価の内容を職員と話し合うなかで、広 報紙「ファミリー通信」の作成に着手したり、 救命救急の講習会に参加するなど、質の向上に 向けた取組みがある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------|----------|--|--|-------------------------|--|
| 5 | 8 | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 民生委員、公民館長、校区社協、地域包括支援センター等を交えての2か月毎の運営推進会議の開催がある。運営推進会議で地域交流を提案し、広報紙や行事案内を校区に配布したり、運営推進会議のメンバーのホーム見学が行われるなどの取り組みがみられる。 | | |
| 6 | 9 | 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 運営推進会議への行政担当職員の参加や運営推進会議の会議録の提出等を通じた連携がある。また、介護相談員を受入れ、幅広く意見を聞くなどの取り組みがある。 | | |
| 7 追加 | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 権利擁護事業及び成年後見制度を利用していた事例はなく、職員への周知もパンフレットの提示に留まっており、家族への説明等の取り組みは行われていない。 | | 地域密着型や認知症の専門機関としての情報発信機能の意味においても、家族会や運営推進会議の際に説明を繰返し、制度の正しい理解と周知に努め、必要な時に確実に利用できるように支援してほしい。 |
| 4 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 8 (7) | 14 | 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族の訪問時に声かけを行ったり、必要な都度の電話連絡や「ファミリー通信」の発行を通じて入居者の状況や様子を知らせたり、家族会の際にさまざまな内容についての報告が行われている。 | | |
| 9 (8) | 15 | 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族の訪問時の声かけや家族会を活用した働きかけなど、家族等の意見の表出に努めている。不定期ではあるものの「ファミリー通信」の発行を通じて意見や要望を言いやすいような働きかけの工夫がある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------|------------|--|---|-------------------------|--|
| 10 (9) | 18 | 職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 事例としては職員と利用者との馴染みの関係ができあがる前の離職であり、ユニット間の人事異動が年間に1回あったのみである。新しい職員の採用時には、入居者一人ひとりに対する挨拶を徹底し、少しずつかわりを持たせる中での関係づくりへ取り組んでいる。 | | |
| 5 人材の育成と支援 | | | | | |
| 11 | 19 追加 | 人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員採用時における何らかの制限は設けていない。また、職員の前職での経験を活かして意見を述べてもらったり、職員の趣味や特技など、それぞれの得意分野について聴取し、職員間で学び合う関係づくりがなされている。 | | |
| 12 | 20 追加 | 人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 入居者との日常のかかわりを通じて人権についての指導が行われているものの、職員の人権意識を喚起するような取り組みについては、これからの課題である。 | | 認知症の方をケアする職員の基本的資質として人権意識が必要であり、その基本的資質である人権意識を喚起する意味において、行政等で行われる講和への参加等、様々な角度からアプローチを行ってほしい。 |
| 13 (10) | 21 (19) | 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 救命救急講習への参加や薬の正しい知識を得るための研修への参加などはあるものの、個々の職員のレベルに合わせた研修会への参加などの取り組みは、今後の課題である。 | | 事業所としての取り組みとして、まずは、様々な研修会等の情報提供を行い、職員が参加したい研修へ参加できるよう休日を配慮するなど、職員の学習意欲を高める働きかけを行ってほしい。 |
| 14 (11) | 22 (20) | 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | ホーム開所時の他グループホームでの研修や数回の見学、協議会等で行われる研修を通じての意見交換などの取り組みは、管理者段階の職員に留まっている。そのためスタッフレベルでの交流や連携等は、今後の課題である。 | | 認知症ケアについての幅広いケアの視点の必要性からホームとして情報交換の機会づくりとして捉え、他グループホームなどとの職員レベルでの交流、連携に取り組んでほしい。 |


| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|--|-------------------------|---|
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 15 (12) | 28 (26) | 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前にホーム見学を実施してもらい、他の入居者との挨拶などの機会を設け、ホームでの暮らしぶりの説明を行い、納得した上で入居してもらうように配慮がある。入居直後の入居者に対し、職員のかかわりを多く持つなど、精神的安定と馴染みの関係づくりへの工夫がある | | |
| 2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 16 (13) | 29 (27) | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 栽培している野菜の収穫時期や野菜の種類を教えてもらったり、料理の飾り切りや皮の剥き方、残った食材を無駄にしない方法など、日々のかかわりの中で学ぶ取り組みがある。 | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 17 (14) | 35 (33) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族の訪問時や連絡の必要な時に家族の希望や意向を確認し、また日々のかかわりの中から入居者の希望の把握に努めている。ただし、介護計画中の希望欄は同じ内容の記載であり、ホームでの暮らし方等についての希望や意向を十分に引出す取組みにいたっていない。 | | 今後は、家族会等を活用した家族の思いや意向の把握とともに、入居者の思いや暮らし方等の希望の変化などを引出し、特にホームでの暮らし方への希望がケアプランに十分に反映するように、さらなる取組みを検討してほしい。 |
| 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 18 (15) | 38 (36) | チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 職員から情報収集を行い、朝の申し送り時に意見を聞くなどの取組みを経て、計画作成担当者が介護計画を作成している。介護計画内容は、生きがいや役割作りとして入居者のできることに着目した内容である。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|------------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| 19 (16) | 39 (37) | 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している | 3か月毎と状態変化に応じたモニタリング を行い、介護計画を作成している。毎月のミー ティング時に、入居者の状況についての見直し の協議が行われている。 | | |
| 3 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 20 (17) | 41 (39) | 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている | 入居者が以前利用していた喫茶店や十日市 (祭)への外出など、個々の入居者の要望に沿っ た支援がある。また、近隣の人との介護相談に応 じるなどの支援がある。 | | |
| 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 21 (18) | 45 (43) | かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している | 今までのかかりつけ医の利用またはホーム の協力医の利用かについては、入居時に希望を 確認して支援している。以前からのかかりつ け医である歯科や眼科、耳鼻科などの往診もあ り、さまざまな医療機関との連携が取れてい る。 | | |
| 22 (19) | 49 (47) | 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している | 契約時に、重度化した際のあり方を家族等と 協議している。また状態変化時には、その都度 家族等と協議を行いながらの支援がある。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1 その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1) 一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 23 (20) | 52 (50) | プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない | 個々の入居者に合わせた声かけや対応がな されており、入居者に対するお礼やお詫びの声 かけがなされていたり、入居者の行動を良く観 察した上でさりげないトイレ誘導など、入居 者のプライバシーを尊重した対応が見られ た。 | | |
| 24 (21) | 54 (52) | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している | 食事にかかる時間の長さや食後の過ごし方、 日中の過ごし方など、入居者のペースを尊重し た対応が見られた。 | | |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 25 (22) | 56 (54) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している | テーブル拭きや下膳、食材の皮むきなど、そ の時々でできることをしていただいている。 職員は、ゆったりと和やかな雰囲気の中で入居 者と一緒に食事を取っていた。 | | |
| 26 (23) | 59 (57) | 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している | 入浴予定日は決めているも、入居者の希望に 添った支援である。入浴の拒否傾向のある入 居者に対しては、足浴から始めるなど、無理強 いせず根気よくかわり、入浴が楽しめるよう な取組みがみられる。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------------|--|---|-------------------------|-----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 27 (24) | 61 (59) | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている | 布団干し、洗濯物タタミ、おしぼり巻き、薬袋 の回収など、入居者間において日常生活の中で 自然と役割ができており、職員はその役割に 沿った支援を行い、感謝の言葉を伝えている。 | | |
| 28 (25) | 63 (61) | 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している | ホーム敷地の内外の散歩やその時々入居 者の希望に合わせたドライブ、年間行事として の外出など、機会を見つけては、戸外に出かけ ている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 29 (26) | 68 (66) | 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る | 日中は玄関を常に開錠しており、職員は入居 者の様子を良く観察して外出傾向があれば一 緒に出かけたり、入居者一人で外出してしま った場合は徘徊ネットワークを利用するなど、地 域との連携のもとに入居者の自由な暮らしを 支える取り組みがある。 | | |
| 30 (27) | 73 (71) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている | 消防署職員の立会いのもとに実施する年2 回の避難訓練などを通じて具体的な指導を受 けている。また、ホームに隣接する系列施設や 母体病院の応援体制がある。 | | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 31 (28) | 79 (77) | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る | 食事は、ユニット毎に作っており、食事と水 分摂取量のチェックを行い、受診の際の検査 データや体重の増減から、入居者一人ひとり についての栄養状態をおおよそ把握している。 | | |

| 外部 評価 | 自己 評価 | 項 目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | 印 (取り組みを期待 したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------------|--|--|-------------------------|-----------------------------------|
| 2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 32 (29) | 83 (81) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関先には季節の花が植えられており、リビ ングは天井が高く開放感があり、天窓から自然 採光を取り入れる工夫がなされており、居心地 の良い空間となっていた。 | | |
| 33 (30) | 85 (83) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている | 居室には、テレビ、筆筒、写真、歌詞カード、抱 き枕など、入居者の好みのもので使い慣れたも のが持込まれており、居心地良く過ごすための 配慮がある。 | | |

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号